

一步一步煩惱減除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

- 六十段 **幸せのカギは心の中に**
- 五十九段 **甘え妥協を捨て向上心を持つ**
- 五十八段 **いい格好を見せよとする結果はよくないから**

『高尾山健康登山の証』のお勧め

年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一の登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が会員となられております。期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などど交換もできます。



帳面………七百円
スタンプ………百円

高尾山 季節散歩

層の言葉
「七十二候」
「芹乃菜 せりすなわちさかう」
一月五日〜一月九日

この時期には芹が芽吹き、青々と茂るという意味です。芹という言葉は鏡り合うように群生していることから、この名前があります。春の七草の一つに数えられ、七草粥の具材として二月七日に食べられる風習があります。

今月の風物詩
お屠蘇
「屠蘇」という言葉は、蘇という悪鬼を退治する、もしくは邪気を払い生気を蘇生させると伝わっております。そのため、お屠蘇を頂くことで寿命長久を祈るという意味があります。山椒や肉桂などの香りの強い薬草を原料とした屠蘇散を清酒や、みりんと合わせて作ります。

健康登山者投稿
ご本尊様が結ぶ御縁
久喜市 星野 智江

私は弟と平成十七年四月に高尾山へ行き、思いがけず春の大祭で稚児行列等の、色々な華やかな行事を拝見させて頂きました。

御護摩修行の最中に、姪の高山節子（筆者の兄、高山薫の長女で二科会友）が寄贈した絵がある。と兄に言われたのを思い出して、寺務所の方にお話をした所、色々調べてくださり、有喜閣の応接室に飾られていますと案内してくれました。

ボタンの絵でした。その時、有難いことに行事を終えられた大山御貫首様と付き添いの方が見えて、一緒にカメラに、突然のことでびっくりしましたが、後日写真を見せ、感無量でした。

何かご本尊様に良いご縁を与えて頂いたのかと、有難かったです。今後ともよろしくお導き頂けるよう、願っております。



大山御貫首と奉納の絵の前で

おはなし散歩道 赤いクレヨンと雪だるま

柏市 木村 研

初詣で賑わった夜のことです。薬王院の境内で、誰かが泣いていました。「うるさいなあ。うるさくて寝られないじゃないか」

「勘弁してくれよ。初詣にたくさんの方がきてくれて忙しかつたんだから、ゆっくり寝かせてくれよ」門の中で、口を開けた阿形と、口を結んだ咩形の仁王さまが言いました。

すると、足もとに転がっていた、ちびた赤いクレヨンが、

「将太くんが、ぼくをおいて帰っちゃったんだよ」と、泣きながら言いました。

「困ったなあ」

「でも、気がついていたら、迎えにきてくれるよ。だから、そんなに泣くなよ」仁王さまが、やさしくいいました。

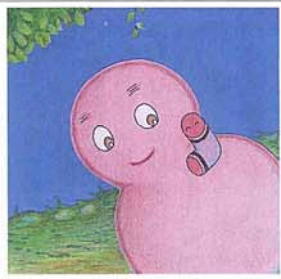
「お前は、助かる」と、仁王さまたちがお礼を言いました。

ちびたクレヨンは、「あつ。将太くんが書いた、らぐがきの雪だるまだね」と、うれしそうに言いました。

「そうだよ。だから、一緒に歩いて行きませんか」

「参道をぬけてケーブルカー乗り場まで来ると、ケーブルカーは、動いていません。」

「しょうがないなあ。歩いて行くしかないだろう」ちびたクレヨンが案内をして、山を下りていき



「ずいぶん、ふらふらしているが、大丈夫か？」

「気をつけて行けよ」

仁王さまに送られて、雪だるまは、暗い参道を歩きました。

山道は、急です。雪だるまは、スキーで滑るように、坂道をすべっていきました。

「わー。早いなー」

クレヨンは、お喜びです。でも、麓まで下りていくと、何だか変です。雪だるまは、少しずつすりへって、だんだん背が低くなってきたのです。

「どうしよう」

小さくなった雪だるまは、もう、クレヨンを抱えきれません。

するとクレヨンは、

「もう、すべらなくていいんだ。ここが、将太くんのうちだから」

と、言いました。

「ここが？」

「そう。あの二階が、将太くんの部屋だよ」

ちびたクレヨンとらぐがきの雪だるまが、外で待つっていると、東の空が明るくなってきました。

その時、玄関が開いて、お母さんが、新聞を取りに出てきました。

「いまだ」

ちびたクレヨンは、小

さくなつた雪だるまといっしょに、玄関に飛び込みました。

「あつ。これ、将太くんのくつだね」

雪だるまが、うれしそうにいました。

「もうすぐ、将太くんがおりてくるぞ」

ちびたクレヨンがいうと、まもなく将太くんが、二階からおりてきました。

そして、くつをはいて、「あれ。赤い雪だるま」と、目を丸くしました。

くつに、雪だるまの絵が描いてあったからです。不思議に思っている、ちびたクレヨンが、ころころと、転がりてきました。

「あつ。高尾山に忘れてきた、ぼくのクレヨンだ。帰ってきたんだね」

将太くんが、赤いクレヨンを園のバックに入れて、うれしそうに幼稚園に行きました。

もちろん、赤い雪だるまの絵もいっしょです。

(さし絵・小出 茂)